

2019年4月22日

課題名：鏡視下上方関節包再建術後の肩関節自動挙上に術前可動域が与える影響

◆研究の目的と概要◆

当院では、鏡視下上方関節包再建術を施行された患者さんの術前可動域が術後の肩関節機能に対してどのように影響しているのかを調べることによって、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

当院整形外科で2017年2月から2019年5月の間に、腱板断裂と診断されASCR（鏡視下上方関節包再建術）を施行した患者さんのうち術後6か月時の機能評価および術前可動域の計測が可能であった患者さん。

◆研究に使用される情報・試料◆

術前機能

- ・肩屈曲自動可動域
- ・肩外転自動可動域
- ・肩下垂位外旋自動可動域
- ・肩屈曲他動可動域
- ・肩外転他動可動域
- ・肩下垂位外旋他動可動域

術後機能（6か月時）

- ・肩関節自動挙上可動域（屈曲）

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報を利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

リハビリテーション部 研究責任者 北本 恭吾

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明